

## 事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

## 【事務事業の基本的事項】

事務事業名	郷土史料館管理運営費			
担当課係名	文化財課	文化財係	作成者	佐藤人志
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち		総合計画のページ 100
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護		
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成		
予算費目	一般会計	10款 教育費	5項 社会教育費	9目 郷土史料館費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規 / 継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

## 【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	国民のため(特に市民・県民)
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	仙北市の文化財の収集保管を図り、市民の文化的資質の向上と、地方文化の進歩発展に資する。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	国登録文化財「クニマス標本」を始め、黒倉遺跡出土品、民俗資料等を展示、広く公開している。

## 【事務事業の推移】

(単位：千円)

項目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績	
効果	活動指標	開館総時間数	h	1,408	1,408	
	成果指標	入館者数	人	1,116	897	
投下コスト	項目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費(人件費を除く)(A)			1,766	1,814	
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源		1,766	1,814	
	人件費(B)			2,356	2,421	
		職員数		0.3	0.3	
		職員平均人件費		7,853	8,071	
(A) + (B) 投下コスト			4,122	4,235		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			2,928	3,008	
	市民1人当たりのコスト(円)			129	135	

【事務事業の今までの成果】

田沢湖町郷土史料館を新市で引き継いで運営している。年間約1千人の入館者数であるが、学校の研究・学習の場となり、小・中学校生の入館が多い。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	「クニマス標本」が国の登録文化財になったことから、多方面から注目されている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	同地区のホテル、旅館、飲食店、土産物店等の観光業者から存続の要望がある。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
C	A 現状のまま継続(実施)	開館に要する経費と効果を再検討する必要がある。
	B 見直しの上で継続(実施)	
	C 大幅な見直しの上で継続(実施)	
	D 休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

現在の施設では、資料館としての機能がはたせない部分が多い。しかしながら、施設の整備を行っていくことも現段階では考えられない状況であり、現在の施設の検討を踏まえ展示の充実を図っていきたい。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
C	貴重な資料を多く展示しており、維持管理を含めた運営方法を検討し今後の事業推進に努めていただきたい。

一次評価診断図

